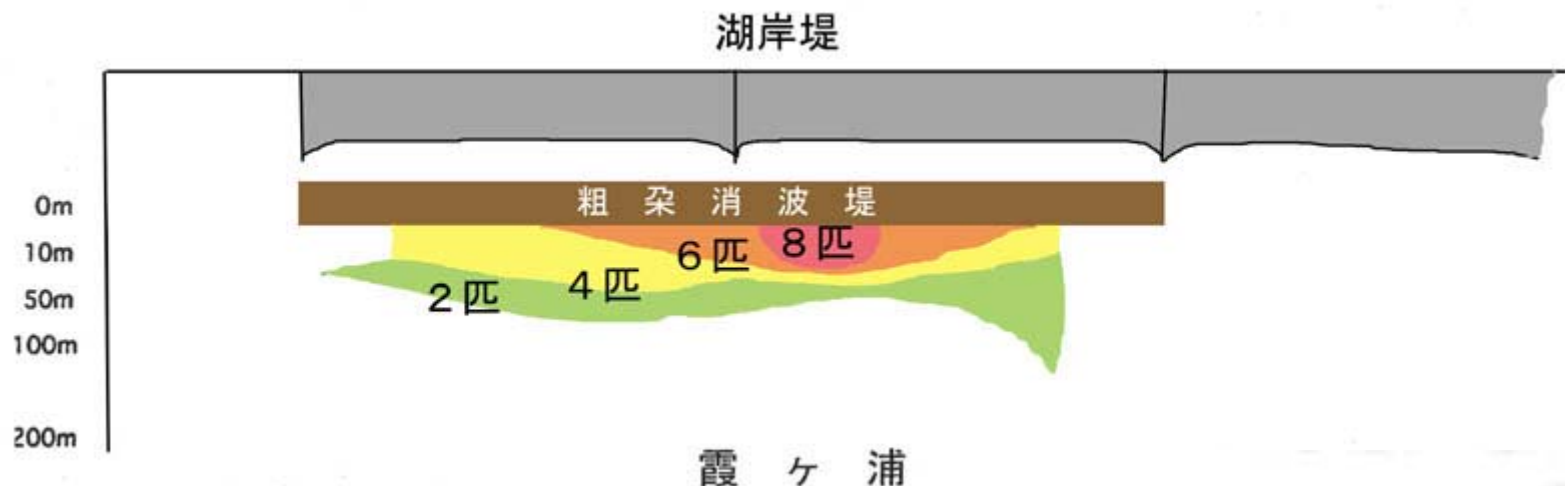


# 粗朶消波堤に集まる魚たち 漁礁として機能

… ワカサギ稚魚の分布(浜田篤信氏との共同調査による)

図：投網3回あたりの捕獲個体数分布(植生帯復元地区石川にて)



そだ消波堤は、ウナギなどの漁礁としても機能することが明らかに。同時に、流域の森林の手入れも進めることができる！



# こんなに湖にたくさんの魚が戻って来た！

## 事業前後における魚類の出現種＜霞ヶ浦石川地区＞

|    |                | 実施前 | 実施後 |
|----|----------------|-----|-----|
| 魚類 | コイ             |     | ●   |
|    | ギンブナ           |     | ●   |
|    | キンブナ           | ●   | ●   |
|    | ゲンゴロウブナ        |     | ●   |
|    | フナ属sp.         | ●   | ●   |
|    | タナゴ            | ●   | ●   |
|    | アカヒレタビラ        |     | ●   |
|    | タイリクバラタナゴ      | ●   | ●   |
|    | オオタナゴ          |     | ●   |
|    | カネヒラ           |     | ●   |
|    | ハクレン           |     | ●   |
|    | オイカワ           |     | ●   |
|    | カワムツ           |     | ●   |
|    | ハス             |     | ●   |
|    | マルタ・ウグイ        |     | ●   |
|    | モツゴ            | ●   | ●   |
|    | ビワヒカイ          |     | ●   |
|    | タモロコ           |     | ●   |
|    | カマツカ           |     | ●   |
|    | ニゴイ            |     | ●   |
|    | ドジョウ           | ●   | ●   |
|    | チャンネルキャットフィッシュ |     | ●   |
|    | ワカサギ           |     | ●   |
|    | シラウオ           |     | ●   |
|    | ボラ             |     | ●   |
|    | メダカ            |     | ●   |
|    | クルマサヨリ         |     | ●   |
|    | カムルチー          |     | ●   |
|    | ブラックバス         | ●   | ●   |

|      |          | 実施前 | 実施後 |
|------|----------|-----|-----|
|      | ブルーギル    | ●   | ●   |
|      | アシシロハゼ   | ●   | ●   |
|      | ウキゴリ     | ●   | ●   |
|      | ジュズカケハゼ  |     | ●   |
|      | トウヨシノボリ  | ●   | ●   |
|      | ヌマチチフ    | ●   | ●   |
| 底生生物 | テナカエビ    | ●   | ●   |
|      | スジエビ     | ●   | ●   |
|      | アメリカザリガニ |     | ●   |
|      | イシガイ     |     | ●   |
|      | ドブガイ     |     | ●   |
|      | シジミ属sp.  |     | ●   |
|      | オオタニシ    |     | ●   |
|      | ヒメタニシ    | ●   | ●   |
|      | マルタニシ    |     | ●   |
|      | サカマキガイ   |     | ●   |
|      | ヒメモノアラカイ |     | ●   |
| 種数総計 |          | 15  | 46  |

事前調査：国土交通省実施（1回/年）。平成13年7月

投網（目合12mm・18mm各10段）、タモ網、定置網2基（1晩設置）

事後調査：アサザ基金実施（1回/月）。平成14年9月～平成17年3月

は、全国もしくは茨城県のレッドデータブック記載種

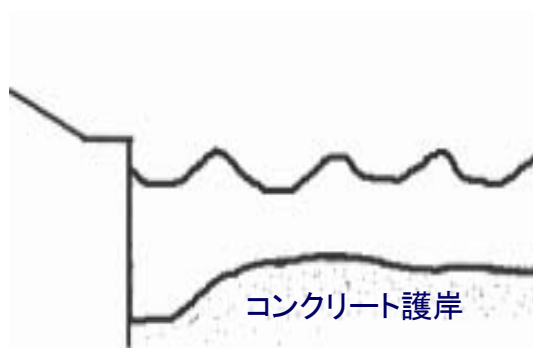
は、外来種

# 森林の再生にもつながる・荒れ放題の森林を手入れ！

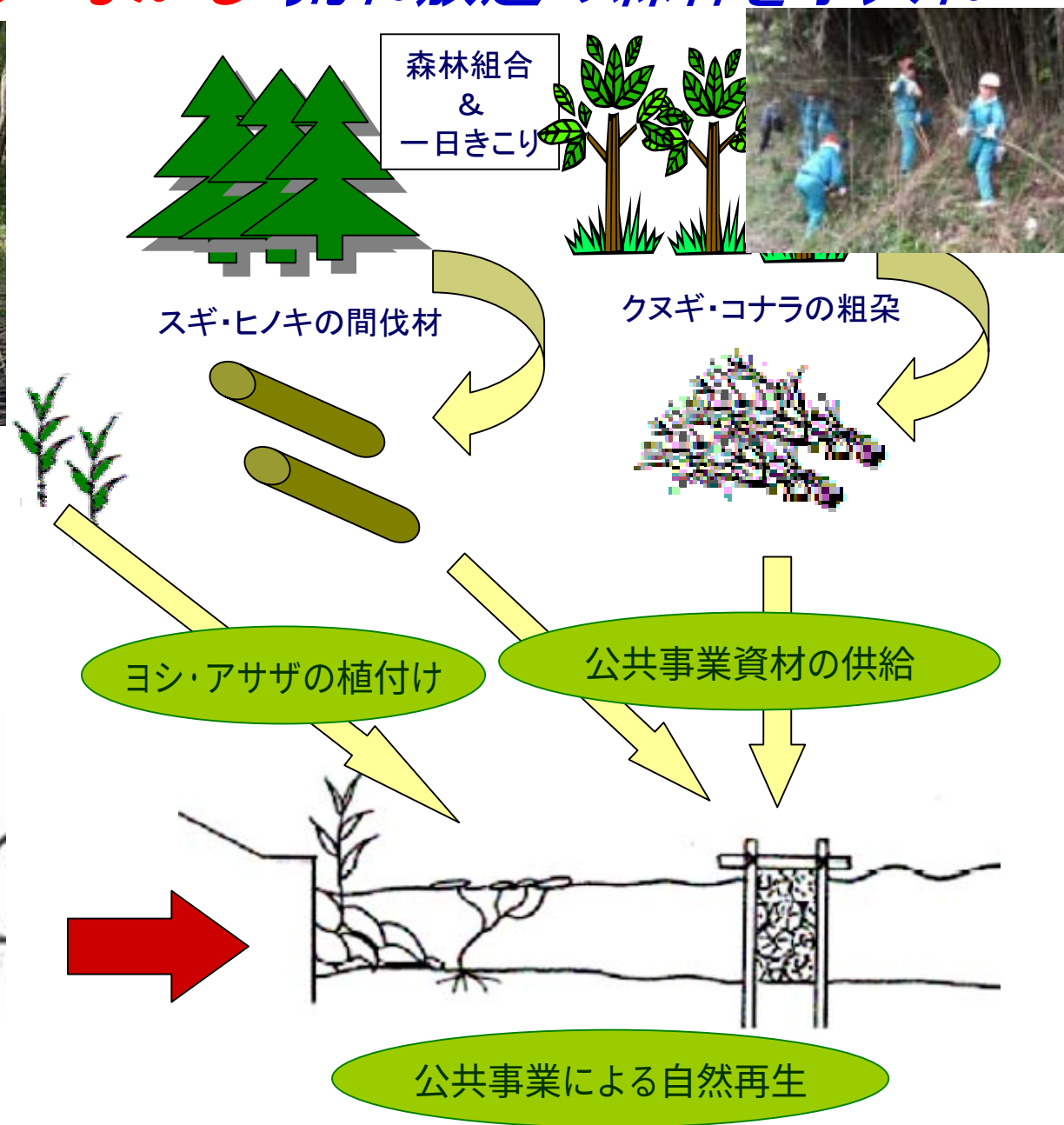


一日きこり・流域各地で実施

湖と森を結ぶ事業！



NPO法人アサザ基金





# 粗朶消波施設は1996年から設置

上:1997年 夏  
中:1998年 春  
下:1999年 秋

北浦漁協と協働で  
開始しました。



**住民と行政が協働でヨシ原再生  
改良を加えより良いものに！**

# 1990年頃から始まった石積み消波施設の代替案 として、そだ消波施設を提案

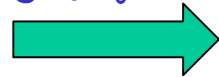


新たな環境破壊が  
波浪対策として石積み消波場

生態系を分断、水質も悪化



透過性があり水質を悪化  
させない、将来撤去ができ  
る。生態系を分断しない。





# 湖の自然再生事業によって里山の自然がよみがえった！



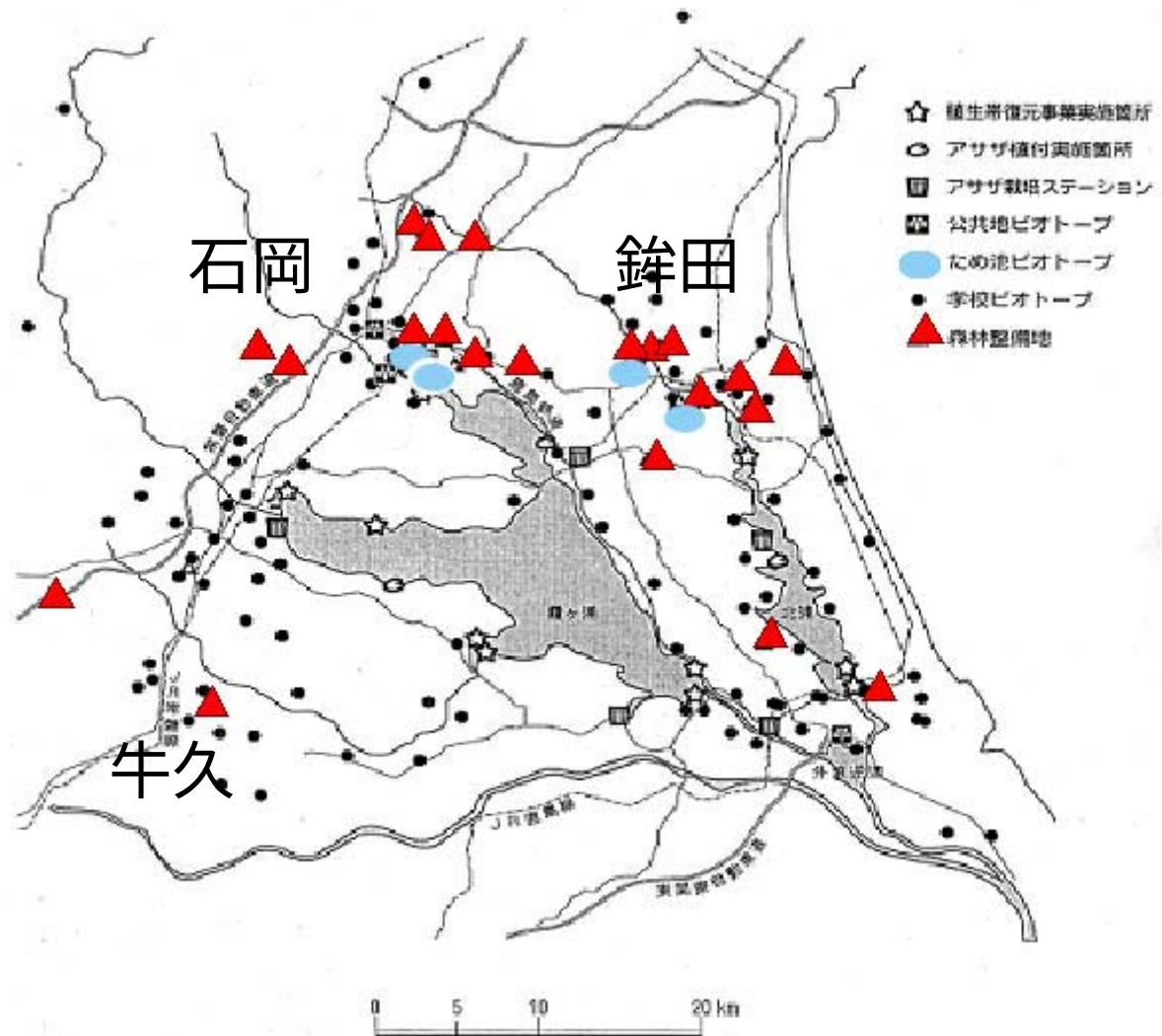
オオタカやフクロウも  
戻って来た！



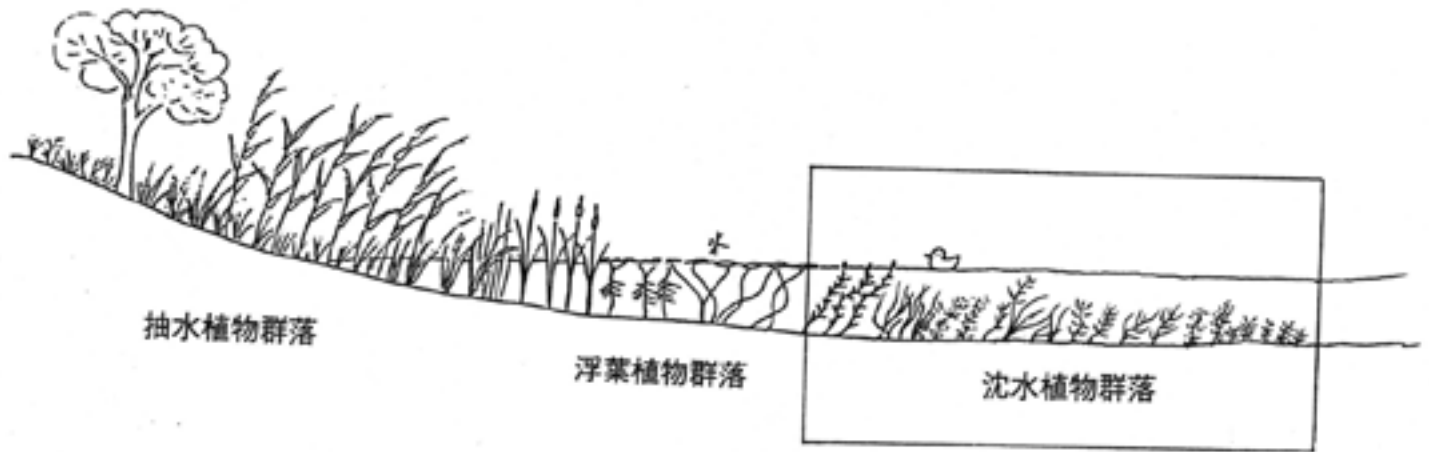
里山の生きものの達が戻ってきた！

# アサザプロジェクトによる水源保全地の分布

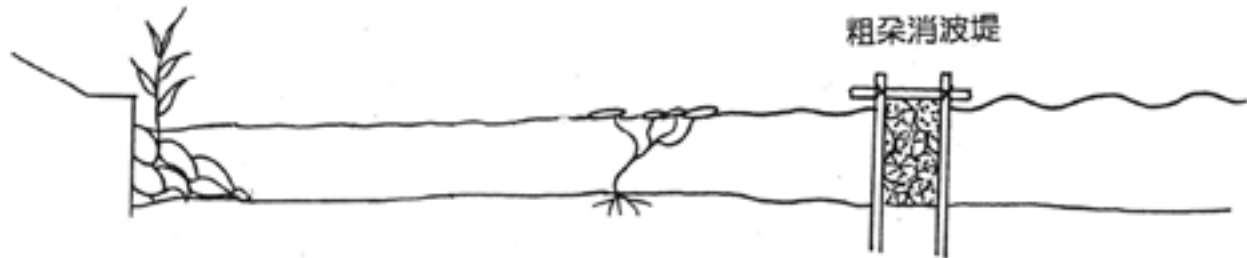
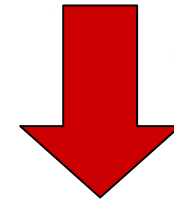
流域の水源地の保全  
水源地「谷津田」の保全  
最大で年間1万人・日以上の雇用を創出



# 粗朶消波施設の位置づけ・沈水植物の代替として



水質の回復が達成するまで  
沈水植物の再生が望めない



そだ消波を沈水植物が再生する間の代替とする。



# 湖の再生にたくさんの住民が参加



湖に入って活動したのべ児童数

… 1万人以上

アサザプロジェクトに参加したのべ児童数

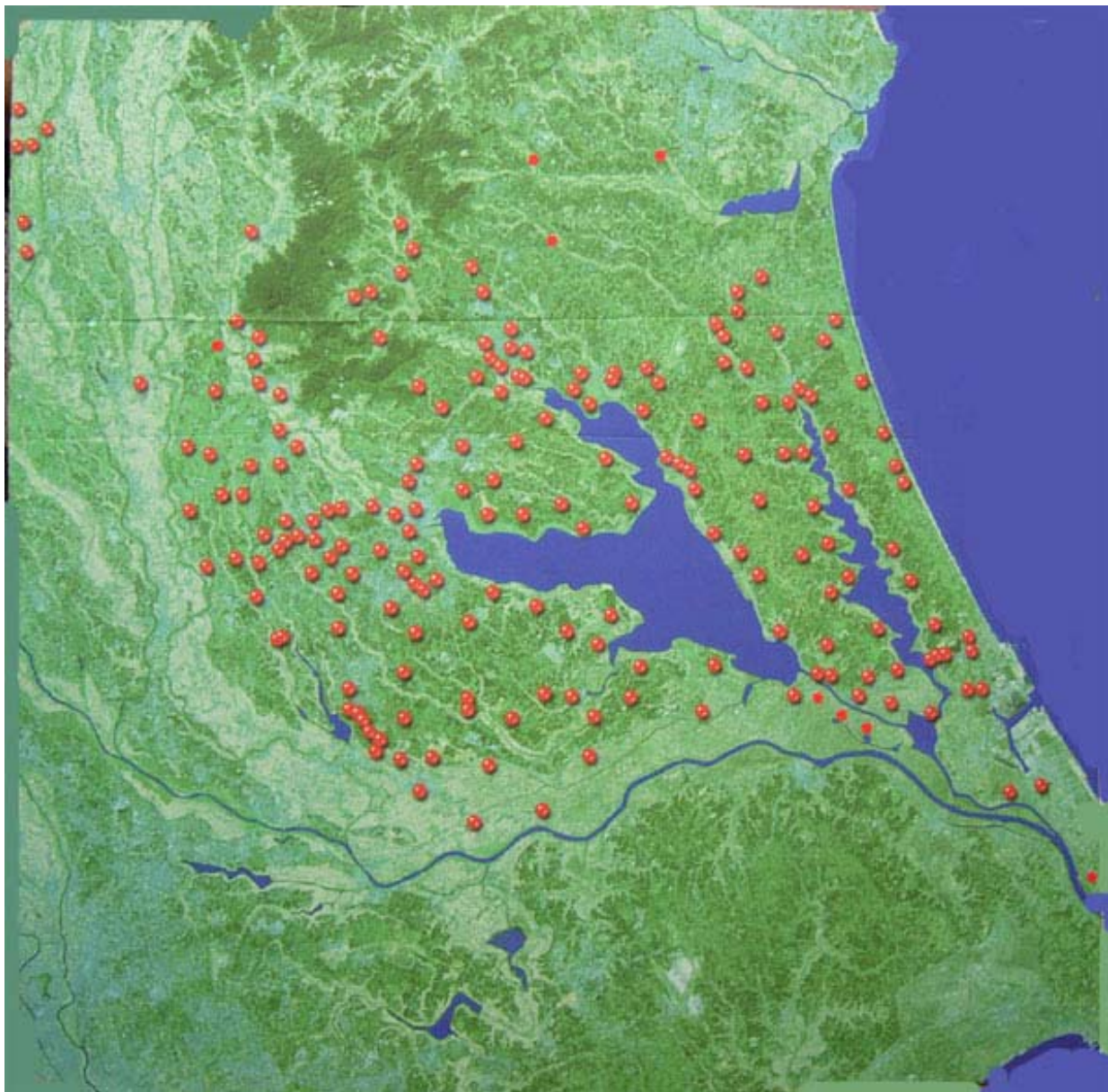
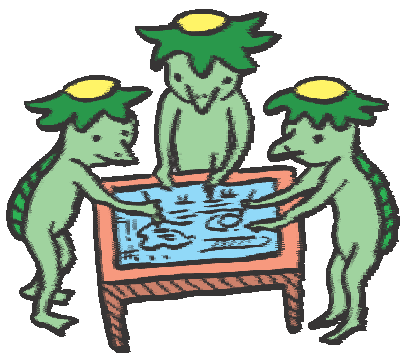
… 15万人以上

# アサザプロジェクト…170を超える小学校が参加

子ども達の感性  
で流域を被う空  
間のつながりを  
取り戻す！

流域ぐるみで  
湖を再生する。

幼稚園・中学校・  
高校を加えると  
200を超える！





# 未来に向けて夢も ふくらむ！

上流から下流まで自然  
環境がつながり、人々  
もつながる循環型社会。

ウナギもトキもいる、霞ヶ  
浦・北浦をめざす。

野生生物が  
社会システムを評価

自然環境の連続性  
と  
社会システムの連続性

NPO法人アサザ基金

100年後、霞ヶ浦に大自然を復活させよう！  
アサザプロジェクト計画図

カイツブリ

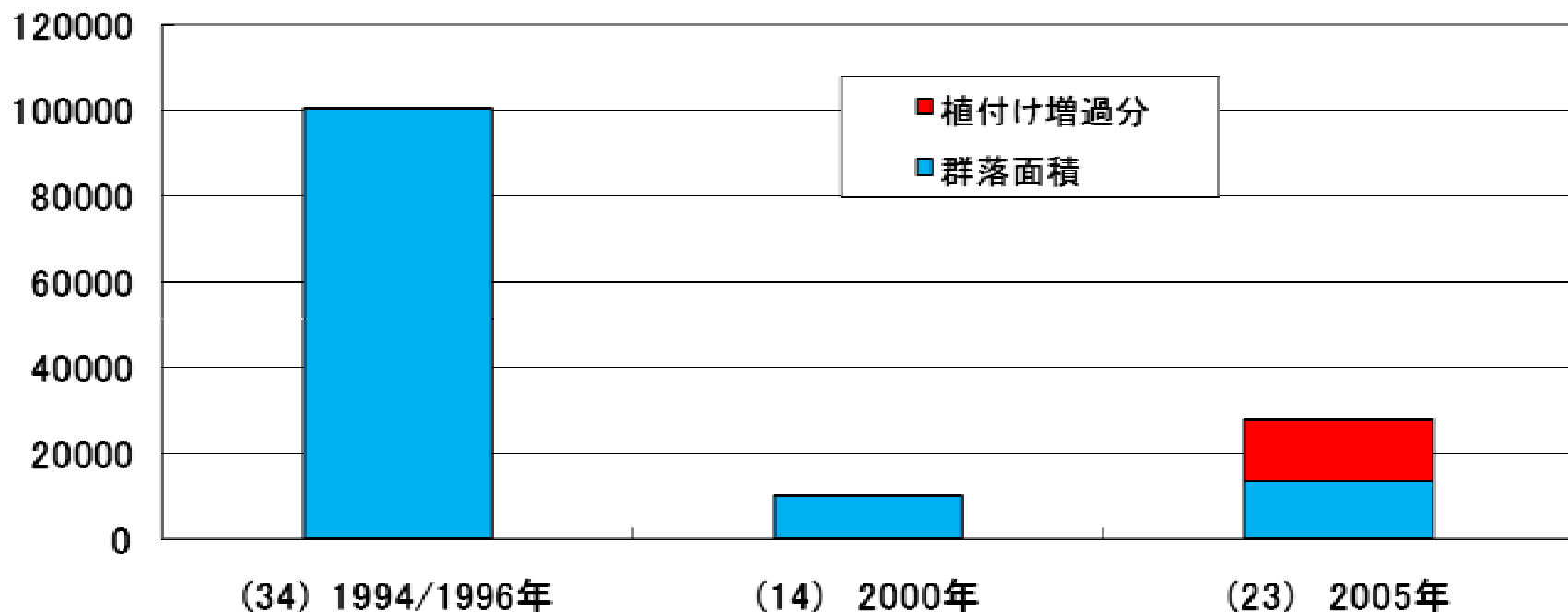




十数万人もの市民が事業へ参加  
したことによってアサザが回復  
ヨシ原も増えていった！

霞ヶ浦浜地区

# 十数万人もの市民の参加による成果！



アサザは復活し始めた！  
同時にヨシ原も再生！  
みんなの努力が形に！

自然再生事業開始

冬期水位上昇中止

冬期水位上昇再開  
2003

冬期水位上昇本格化  
2005

保全地区内のアサザ  
群落が減少し始める

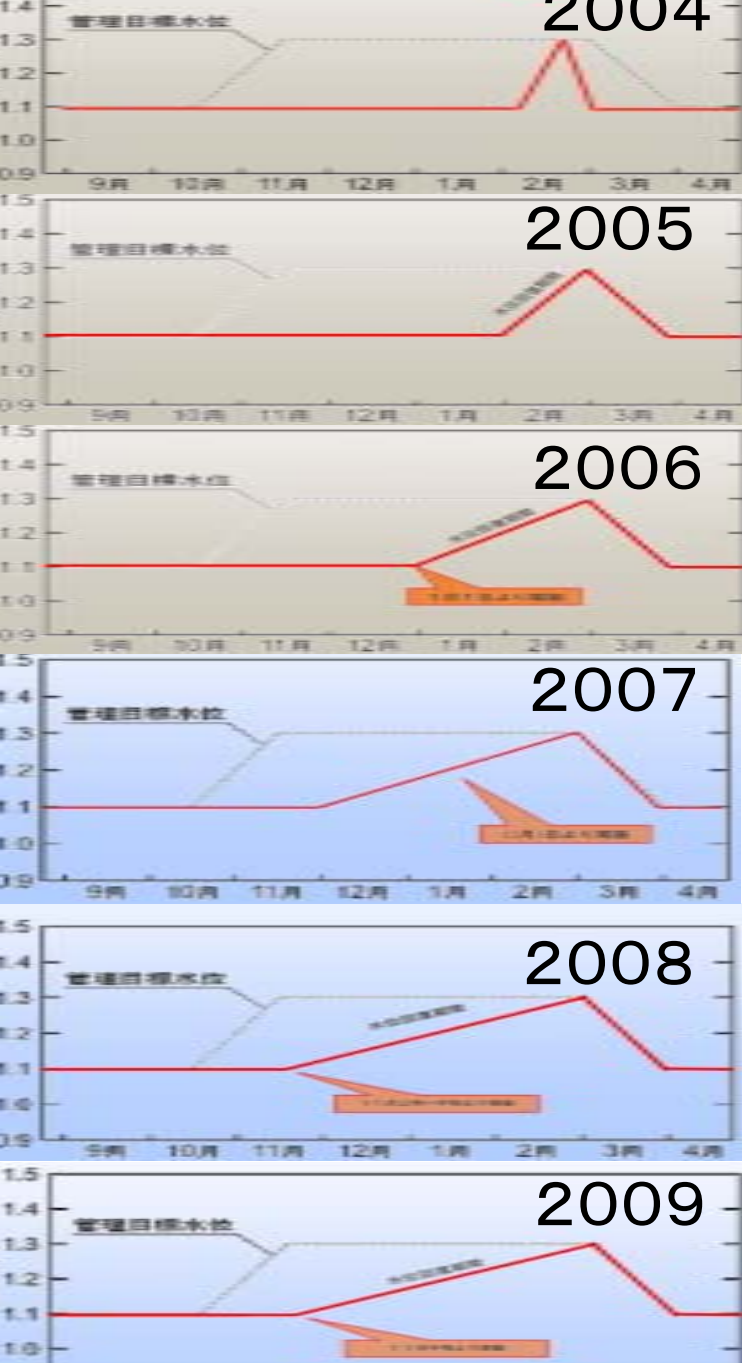
# ところが！

国交省は2004年から  
自然とは逆の水位管理を  
再開！

2004年以後における  
冬期水位上昇管理  
の変遷

(国交省作成イメージ図より)

年々、水位を上昇させる期間が  
長くなっている！ それにともない  
生態系も悪化の一途！

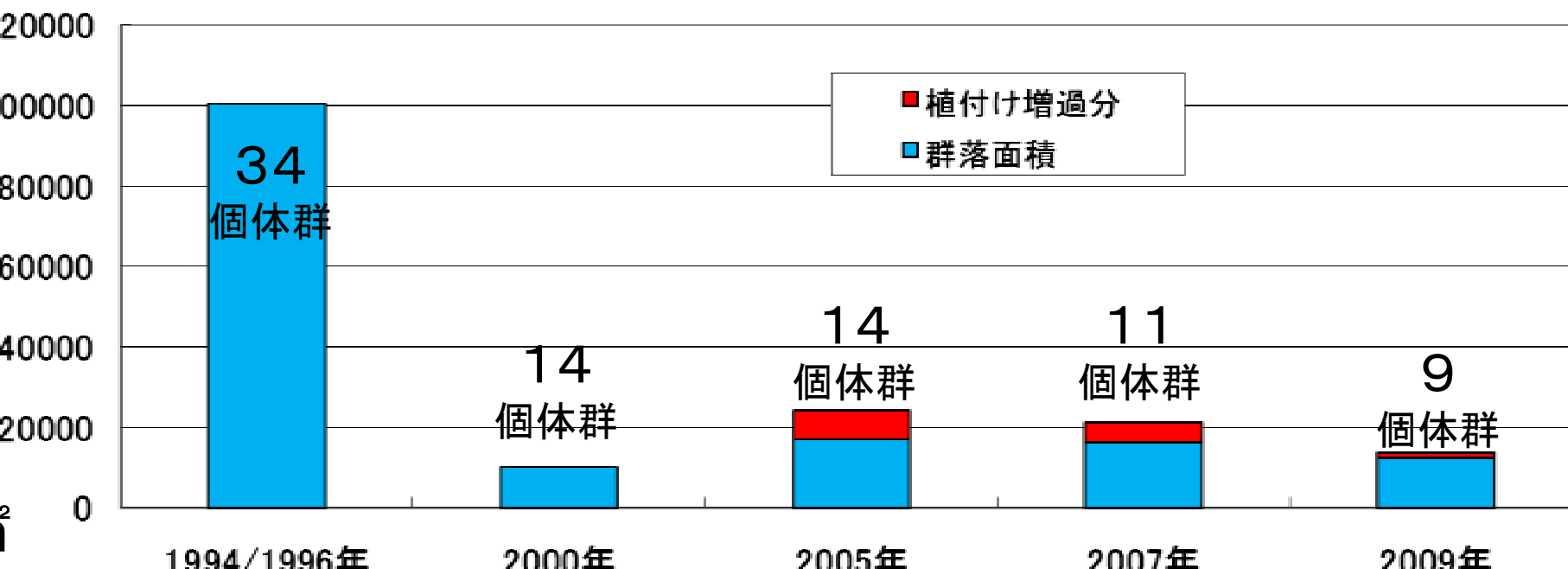


国土交通省作成  
の図を抜粋



# 冬期水位運用再開後にアサザが激減

|              | 2004.11<br>～<br>2005.3 | 2005.11<br>～<br>2006.3 | 2006.11<br>～<br>2007.3 | 2007.11<br>～<br>2008.3 | 2008.11<br>～<br>2009.3 |
|--------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| Y/P 1.15以上日数 | 28                     | 21                     | 22                     | 14                     | 47                     |
| Y/P 1.2以上日数  | 14                     | 21                     | 62                     | 76                     | 59                     |
| Y/P 1.3以上日数  | 3                      | 3                      | 6                      | 8                      | 12                     |
| 水位上昇総日数      | 45                     | 45                     | 90                     | 98                     | 118                    |



みんなの努力が水の泡に。  
アサザが湖の異変を知らせる！

市民の手で再生したアサザ群落 2005年



小美玉市浜

水位上昇後に完全に消滅してしまった 2009年



再び絶滅の  
危機に！

多くの人々に親し  
まれていた。

鹿嶋市大船津のアサザの大群  
落。  
この大群落も水位操作後に完  
全に消滅した！







霞ヶ浦・境島の大群落も水位操作後に完全消滅！

# 冬場の水位上昇による影響は湖全体に。

春の芽出しに影響を及ぼすだけでなく、既存の植生にも影響を及ぼす。写真の場所は美浦村木原地区で、波浪対策のための消波堤はあるが水位が高く、風が強いために、ヨシ原を侵食している。沈水植物の再生も困難に！

冬場の水位上昇 → 水深が深くなる → 強風時に波浪増大  
→ 植生侵食



ヨシ原もどんどん減っている！





さらに  
十数万人が関わって再生してきた湖岸植生を  
国交省が重機で破壊！



国交省の評価  
検討会はこの。  
うな行為を容認

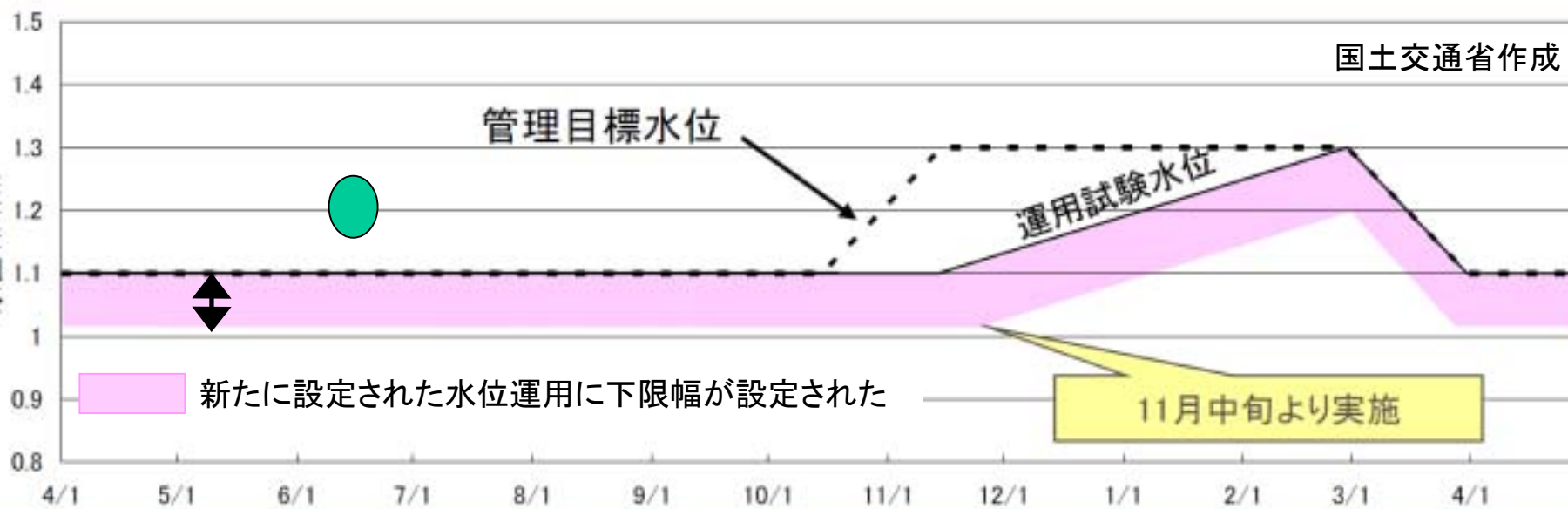


このままでは霞ヶ浦全域がこのような風景になってしまう！



冬期水位上昇運用試験に対して、アササ基金は幾度も中止の申し入れ、交渉を行った結果、今年の水位上昇試験には変化が！

## 今年度(2010)の冬期水位上昇試験の内容



・国交省は水利権者に対して、年に一回でも水位管理目標値に上げた状態を示したいという。(実際には水は余っているのだが？)

それならば、

・水位上昇(1回でいいのでYP1.3mを達成)を行う時期の変更はできないのか。**影響が大きい冬ではなく、別の時期に試験実施できるのではないか。**● 例えば・・・6月～7月など 関係者の意見を聞いて試験を実施する。



逆水門と水位操作に関して 辻元副大臣(当時)と大河原議員  
(公共事業チェック議員の会事務局)

前原国土交通大臣(当時)に政策を提言 2010. 4. 1



○水位に関しては下げられるかどうか検討するよう指示をした。

○逆水門の柔軟運用に関しては、研究をしてみます。

2010. 4. 1

前原国交大臣

# 逆水門の柔軟運用案をめぐる動き

- 1997.12 霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議が建設省と県に逆水門の柔軟運用を提案。  
その後も要望を続ける。
- 2002.10 アサザ基金は逆水門柔軟運用に関する円卓会議の開催を要望(国と県)
- 2002.10 第155回国会参議院決算員会において、**扇国土交通大臣が、アサザ基金**  
**が要望した円卓会議の開催に同意する答弁を行う。**
- 2002.12 第155回国会参議院環境委員会で、逆水門柔軟運用と円卓会議に関する質疑
- 2002.12 国交省が意見交換会を開催。円卓会議は意見交換会になってしまった。
- 2003.2 第155回国会衆議院国土交通委員会において、逆水門柔軟運用と  
円卓会議に関する質疑
- 2003.7 民主党国会議員団が現地を視察。逆水門の提案について関係行政機関(国交省、  
厚労省、環境省、農水省、経産省、茨城県)等 を集めた話し合いが現地で持たれる。  
**公共事業チェック議員の会が現地を視察。**
- 2004.6 「霞ヶ浦・北浦の自然再生に伴う経済効果の試算」発表 (UFJ総合研究所 及び  
京都大学大学院地球環境学舎)
- 2004 自民党政調会で、逆水門の提案について説明。
- 2009 国土交通大臣に霞ヶ浦導水事業の代替案として提案。
- 2010.4 **前原国土交通大臣に逆水門柔軟運用の提案を行う。**  
**柔軟運用の実施が可能かどうか検討する と回答を得る。**
- 2010.6 土浦市議会が全会一致で柔軟運用案を採択、国に要望。
- 2010.11 茨城県議会議員(21市)が柔軟運用案を採択

# NPOを社会の中にどう機能させるのか

## 分かれ道

### × 行政の機能を補完する。

少ない費用で公的な機能をNPOが維持する＝下請け化

→ 縦割りし硬直化した行政システムを温存

### ◎ 行政をネットワークの中で機能させる。

NPOが行政など専門分化した組織間の連携をつくり

公的な機能を引き出す＝ビジネスモデルの提案。

→ 社会システムの再構築

＝ホルモン

→ 循環型社会（良き出会いの連鎖）

触媒



# ●●●従来型公共事業と市民型公共事業の違い●●●

従来型 箱型 既存の枠組の中での可能性→問題解決型

市民型 ネットワーク型 地域の潜在力 →価値創造型

従来型 ひとつの事業にひとつの機能・効果を期待。

市民型 ひとつの事業から多様な機能・効果を期待。

従来型 人モノ金の動きは縦割り、自己完結型

特定の点と点を結ぶ線→分断化、既得権、利権。

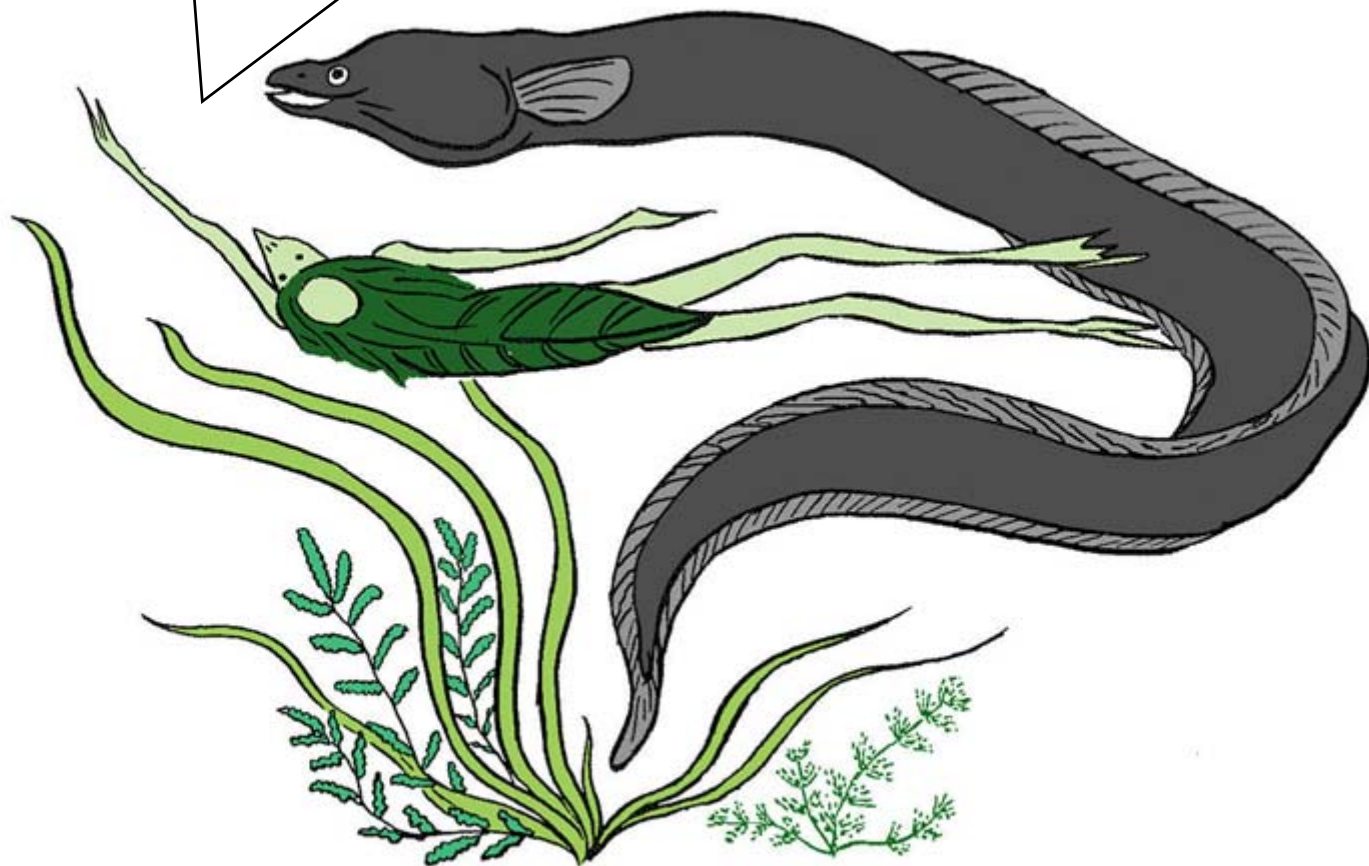
市民型 事業の波及効果が縦割りを越えて地域に広がる。

連鎖的に展開→つながり、新たな出会い、循環。

従来型 単年度(年度割り)→持続性がない。中央への依存。

市民型 個々の事業を活かしてネットワーク・つながりを作

霞ヶ浦・北浦が世界一に！  
茨城県のブランド力もアップ！



# 問い合わせ先

NPO法人アサザ基金

〒300－1233 牛久市栄町 6－387

でんわ 029－871－7166

ファックス 029－871－7169

E－mail [asaza@jcom.home.ne.jp](mailto:asaza@jcom.home.ne.jp)